

令和8年度松戸市文化スポーツ推進審議会（第1回）

次第

日 時： 令和8年8月24日（月）14時～

場 所： 松戸市役所 新館7階 大会議室

【議 事】

- 1 令和8年度以降の諮問事項について
「文化スポーツ創造のまち・まつど」推進方針」のアクションプランに関すること
- 2 その他

【配付資料】

- 資料1 令和8年度以降の審議会の進め方について
- 資料2 「文化スポーツ創造のまち・まつど」推進方針（案）における
アクションプランについて
- 資料3 文化複合施設基本構想（案）の概要について
- 参考資料 今後の松戸版アーツカウンシルを検討するための資料
- 資料4 令和7年度第3回文化スポーツ推進審議会・会議録

令和8年度以降の審議会の進め方について

資料1

R6年度～R7年度

R8年
5月

8月

11月
-12月

R9年
2月

R9年
6月
-7月

審
議
会

諮問事項
(仮称)松戸市
文化スポーツ
創造のまち
推進方針の
策定に関する
こと

答申
「文化ス
ポーツ創
造のま
ち・まつ
ど」推進
方針

5月18日

諮問事項
「文化スポーツ
創造のまち・
まつど」推進
方針のアク
シヨンプラン
に関すること

審 議

主な事業検討について

- ・文化複合施設について
- ・松戸版アーツカウンシルについて
- ・その他新規・拡大事業について

委嘱期間 令和6年11月18日～令和8年11月17日

委員委嘱

市

・方針
パブリックコメント
(7月1日～7月30日)

・方針
10月1日からスタート
(期間：R8年度～R11年度)

・アクションプラン
4月1日からスタート
(期間：R9年度～R11年度)

1 アクションプランとは

- 「文化スポーツ創造のまち・まつど」推進方針（以下「方針」とする。）で示す「めざすまちの姿」や5つの戦略の実現に向け、取組を具体化し、実行するための計画です。
- 戦略を具体化するための事業を設定し、各事業の目標と内容、成果や費用対効果を明確に示し、着実な推進と継続的な改善を図っていきます。

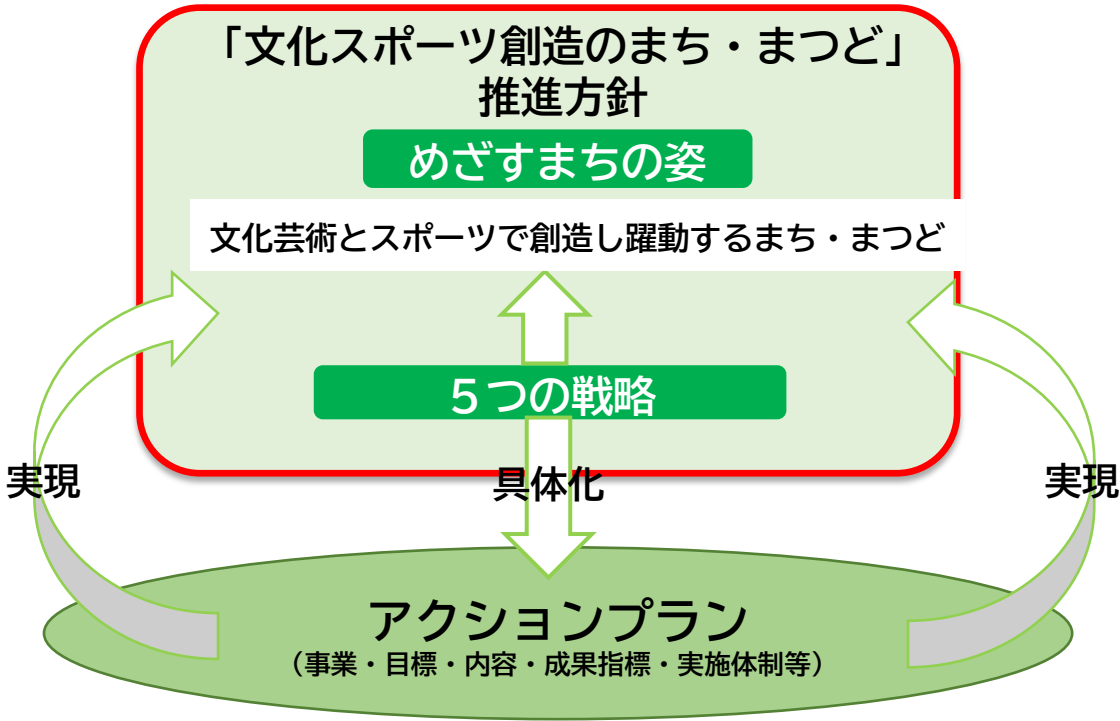
2 審議会の役割

- 5つの戦略の実現に向けた提案
- 事務局（市）案に対する意見
- アクションプランの実施評価

3 計画期間と進捗管理

- 計画期間は、方針に合わせ令和9年度から令和11年度までとします。
- 審議会への報告を毎年度行い、評価しながら、次期方針及び次期アクションプランの検討を行います。

	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	
推進方針		計画期間R8-R11				次期方針				
			見直し							
アクションプラン		計画期間R9-R11				次期プラン				
			見直し							



←----- 方針 -----→

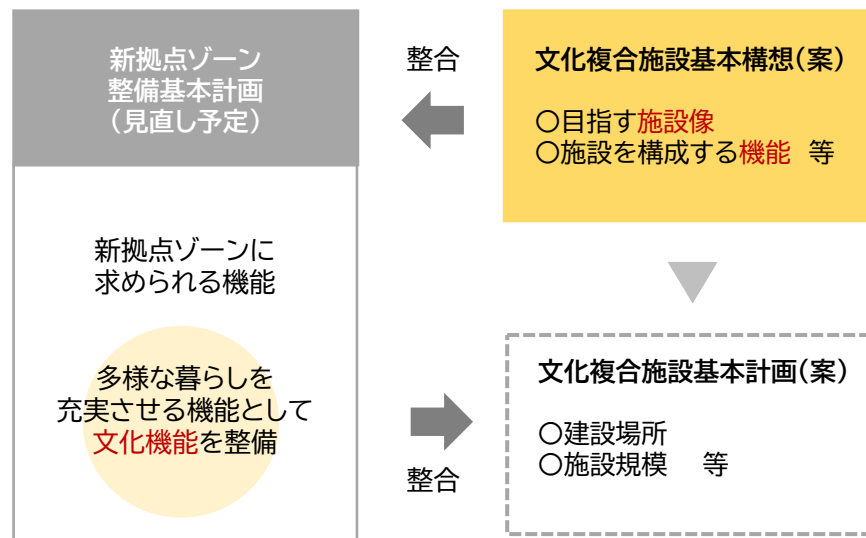
[illegible]

	R8年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	R9年 1月	2月	3月	4月～
推進方針	パブコメ			策定						
アクションプラン										
文化スポーツ推進審議会	反映 ↓ 第1回 勉強会	報告・意見 ↓ 第1回 審議会		反映 ↓ 第2回 勉強会	報告・意見 ↓ 第2回 審議会			報告・意見 ↓ 第3回 審議会		

1 基本構想の概要

● 位置づけ

文化複合施設基本構想(案)(以下「基本構想」)は、新拠点ゾーン整備基本計画等と**整合**を取る構想として位置づけられている。



● 基本構想の内容

基本構想は施設のコンセプトや機能等、**大きな方向性**をまとめたものであり、建設場所や施設規模等、具体的な事項は文化複合施設基本計画(以下「基本計画」)の中で別途策定する。

● これまでの経過

基本構想についてはR4年度より策定作業を開始し、有識者懇談会、市民意識調査、職員ワーキング等で検討を重ねながら取りまとめた案であるが、公表していない。

2 今後の進め方

● 令和8年度

文化複合施設についての方向性を市民や議会と共有し、議論の土台とするため、令和8年度中に基本構想を公表→意見集約→策定する。

R8. 8月	9月	10月	11月 ~12月	R9. 1月	2月	3月
24 文化スポーツ推進審議会	市民 アンケート	オープン ハウス		パブリック コメント		策定
28 まちづくり委員会						

松戸市文化複合施設基本構想(案)の概要について

1 松戸市文化複合施設の検討に向けて

■ 検討の視点

本構想(案)は、図書館、アートセンター、ホール、プラネタリウム等を含む機能を想定した松戸市文化複合施設を整備するにあたり、市民アンケートや有識者懇談会による意見聴取等を通じて、本施設に関するコンセプトや機能等、大きな方向性をまとめたものです。建設場所や施設規模等、具体的な事項は文化複合施設基本計画の中で別途策定します。

本施設では、市民が学びたいときに学べる環境づくりを目指し、4つの視点を取り入れ、本施設の求められる機能、規模、運営等について幅広く検討しています。

ー4つの視点ー

1. 学びのサードプレイス
2. 知の拠点・文化の拠点の複合化
3. 可変性・多様性・多目的な利用
4. にぎわい・地域の活性化

2 基本理念

<基本理念>
誰もが学び、集い、つながる知の拠点
～みどりと本に囲まれた学びの広場～



変化の激しい予測不能な時代を生き抜き、自ら学び、成長する力を育み、新しい世界との出会いにより生涯を通じて学びが喜びや成長を促し、未来の松戸を担う人を育て、未来の松戸を牽引します。

- 文化芸術を通じた様々な学びや交流により、学びたいときに学ぶことができる場を目指します
 - ・ みどりに囲まれ、地域の誰もがくつろぎ、交流し、学習し、自由に利用できる学びの場を提供します。
 - ・ 本やメディアにふれることにより、発見や気づきを得て知る喜びや楽しさにつながり、学びをきっかけとした様々な体験や活動が生まれます。
 - ・ 子どもから大人まで幅広い世代が、気軽に知識や文化芸術に触れる機会を増やします。
- 多様な人と出会うことにより、新しい世界や共創の扉を開きます
 - ・ 世界が広がり人生を豊かにする人と人の出会いや人と学びの機会を創出します。
 - ・ 市民が大学や企業とつながり、インキュベーションを創出します。
 - ・ 市民が専門家やプロと出会い、つながることで、新しい世界の扉を開きます。
 - ・ 人生の様々な場面に寄り添い、よりよく生きていく手助けをします。

● 学びや活動を未来に活かし、人もまちも循環し成長しつづける未来を目指します

- ・ 学んだことや体験を生かし、自らよりよく生きていく力をつけ、地域や次世代につなげることで、人も松戸も育つ未来を目指します。
- ・ 学びや文化を次世代に継承することで、松戸の歴史や文化が地域に根差す未来を目指します。
- ・ 新しい松戸の価値や魅力を内外に発信し、持続的に成長する未来を目指します。



(イメージ図)

● まちとつながり、活動がまち全体に広がることを目指します

- ・ 学びや集いなどの活動は施設内だけでなく、公園やまちなかの様々な施設・機関・場所で展開します。
- ・ 垣根を超えた連携による人・モノ・コトの循環が、まちづくりへと波及することを目指します。

● 小さくはじめて、大きく育てる成長サイクルを目指します

- ・ 市民参加による成長しつづける施設を目指し、試行錯誤を繰り返しながら、変化に対応していきます。
- ・ 可変性のある機能や空間づくりにより、ライフスタイルやワークスタイルの変化に対応できる施設を目指します。
- ・ 民間事業者、市民、行政などの連携・協働のもと、みんなでアイデアを出し合いながら未来に向かって進化(深化)し続けます。



(イメージ図)

3 目指す施設像

図書館機能、アートセンター機能、ホール・プラネタリウム機能だけでなく、居場所・交流機能を兼ね備えたシームレスな文化創造の拠点として、市民のニーズや時代の変化に応じて成長しつづける未来志向の施設となることを目指します。併せて、公園等と一体的に利用できるように施設を目指します。

1 学びの礎となる知の集積

- 図書館機能を中心に、市民の学びや読書の楽しみを支え、付加価値の高い情報提供や多様な活動のサポートをします。

2 文化・芸術・情報のインプット・アウトプット

- 様々な学びや文化・芸術・情報に触れ、多様な体験や交流を通して自分の世界や可能性を広げることができます。
- 見たこと、学んだことを表現や創作へとつなげ、まちへ、世界へ発信することができる場となります。

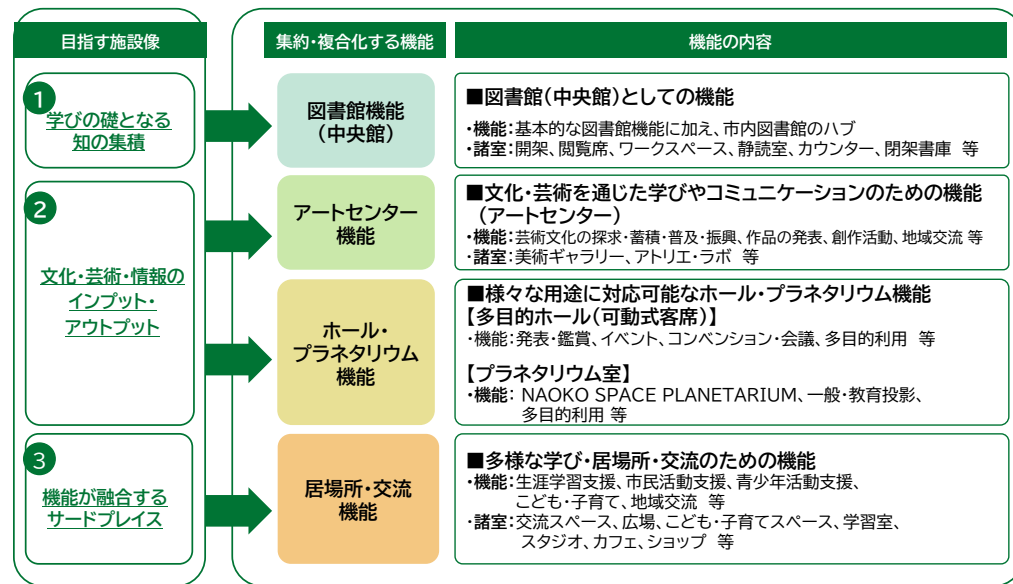
3 機能が融合するサードプレイス

- 地域の人が誰でも気軽に訪れることができるみんなの居場所としての役割を果たします。
- 図書館、アートセンター、ホール・プラネタリウムのほか、居場所・交流機能を兼ね備え、多様な機能が融合する場として、知の交流を促します。
- 機能の複合化により、学び・創造・発信がつながり、新たな価値や可能性を生み出します。



4 求められる施設機能

本施設は、図書館機能(中央館)、アートセンター機能、ホール・プラネタリウム機能、居場所・交流機能により構成され、各機能は多目的、多用途に使用できることを想定します。
各機能は、第1章や第2章で取り上げた本市の現状や他市の参考事例、近隣の施設の立地状況等を踏まえ、以下の内容を想定します。



目指す施設像
1 学びの礎となる知の集積

図書館機能(中央館)

中央図書館機能として、来館者の「目的を持った学び」と「本や情報との偶然の出会い」を大切に、楽しみながら知識や世界を広げられる図書館となることを目指します。

■図書館(中央館)としての機能

- 機能 基本的な図書館機能に加え、市内図書館のハブ
- 諸室 開架、閲覧席、ワークスペース、静読室、カウンター、閉架書庫 等
- 使い方イメージ
 - ・調べものがしっかりできる蔵書とサポートの充実
 - ・思いを形にできるようなワークスペース
 - ・仕事や生活がよりよくなる出会いや発見を生む展示
 - ・オンラインやグループ学習など、多様な学び方に対応した空間
 - ・多様な人が思い思いに共存できる居心地の良い閲覧スペース

大和市文化創造拠点シリウス

石川県立図書館

フロアごとに異なるテーマの図書館に出会うことができ、本棚や椅子、机のデザイン・色も変えている

吹き抜け空間に円を描くように本棚が配置され、様々な閲覧席がある。

目指す施設像
2-1 文化・芸術・情報のインプット・アウトプット

アートセンター機能

様々な学びや芸術に触れ、多様な体験や交流を通して自分の世界や可能性を広げることができます。

■文化・芸術を通じた学びやコミュニケーションのための機能(アートセンター機能)

- 機能 文化芸術の探求・蓄積・普及・振興、作品の発表、創作活動、地域交流 等
- 諸室 美術ギャラリー、アトリエ・ラボ 等
- 使い方イメージ
 - ・話題性や集客力のある展覧会を開催できる
 - ・市所蔵の美術コレクションを公開できる
 - ・制作した作品を気軽に展示できるアトリエ・ラボ
 - ・アーティストとともに創作活動ができるオープンな場
 - ・国内外アートを通じた学びやコミュニケーションの場

八戸市美術館

米百俵プレシミアライズ長岡

所蔵作品を実験的に展示する「コレクシヨナラボ」、市民の作品なども展示するギャラリー等、機能が異なる展示空間が存在している。※写真はシャントルーム

モノづくりラボには、3Dプリンターなどのデジタル機器があり、地域に開かれたものづくりプラットフォームになっている。

目指す施設像
2-2 文化・芸術・情報のインプット・アウトプット

ホール・プラネタリウム機能

見たこと、学んだことを表現や創作へとつなげ、まちへ、世界へと発信することができる場となります。

■様々な用途に対応可能なホール機能

- 機能
 - ホール: 発表・鑑賞、イベント、コンベンション・会議、多目的利用 等
 - プラネタリウム: 一般・教育投影、多目的利用 等
- 諸室 多目的ホール(可動式客席)、プラネタリウム 等
- 使い方イメージ
 - ・様々なスタイルの公演、発表、展示に対応できる
 - ・映像作品の展示など、最新技術を活用できる
 - ・企業の展示会などに利用できるプラネタリウム
 - ・星空の投影を通して、自然科学や宇宙への関心を高める
 - ・寝転がって本を読むことができる
 - ・ライブやイベント開催など、多様な用途で利用できる
 - ・「NAOKO SPACE PLANETARIUM」として、本市出身の山崎直子宇宙飛行士を記念し、子どもたちが宇宙への関心を身近に感じる

シティホール&ギャラリー五反田

コスモプラネタリウム渋谷

ホールは平土間となっており、ホールとワイエはスライディングウォールで壁を自由に移動させて一体的に使うことが可能。

貸館事業も行っており、プロポーズやVtuberのライブ等にも使われている。

目指す施設像
3 機能が融合するサードプレイス

居場所・交流機能

地域の人が誰でも気軽に訪れることができる、みんなの居場所としての役割を果たします。図書館、アートセンター、ホール・プラネタリウムの各機能が連携する場として、知の交流を促します。

■多様な学び・居場所・交流のための機能

- 機能 地域の人が誰でも気軽に訪れることができるみんなの居場所機能 等
- 諸室 交流スペース、広場、子ども・子育てスペース、学習室、スタジオ、カフェ、ショップ 等
- 使い方イメージ
 - ・地域の人が誰もが気軽に訪れることができるみんなの居場所
 - ・自由に本を読んだり、学習したり、おしゃべりできる交流スペース
 - ・図書館やプラネタリウムなどで学んだことを発表、表現できる広場
 - ・市民活動や生涯学習、地域交流などに使えるスペース
 - ・子どもと親子が安心して楽しく遊べる子ども・子育てスペース
 - ・仕事や学習、作業に利用できる学習スペース
 - ・演奏やダンス、料理や工作ができるスタジオ
 - ・みどりを感じながらゆったりくつろげるカフェ
 - ・市の名産品やアート作品を購入できるショップ 等

茨木市文化・子育て複合施設 おにクル

山口情報芸術センター YCAM

開放的な空間で、活動の打ち合わせや準備、イベントや講座開催に利用できる。

天井の高さを活かした展示を行うこともあるフレキシブルな場所となっている。

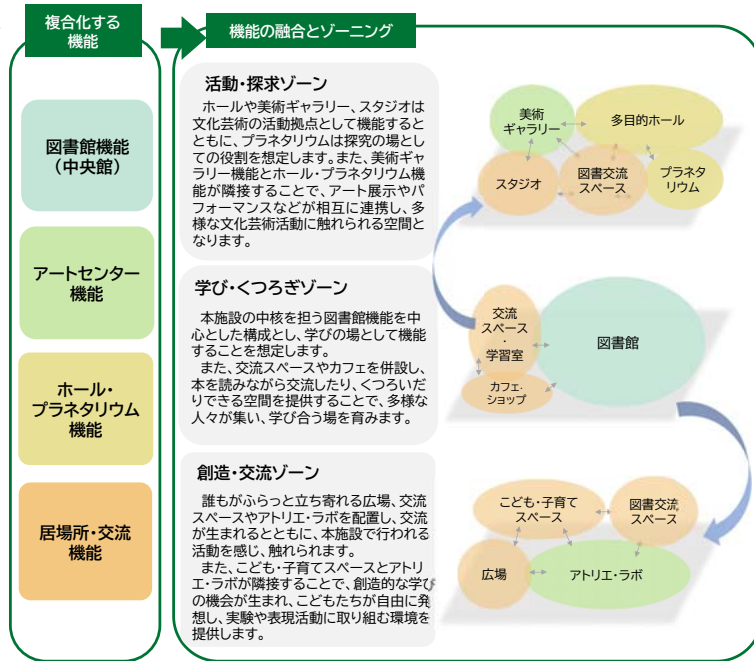
5 機能が融合する効果的な配置・ゾーニング

■ 機能の融合とゾーニング

・各機能を親和性が高いものごとにまとめ、「活動・探求」「学び・くつろぎ」「創造・交流」の3つのゾーンに整理しました。

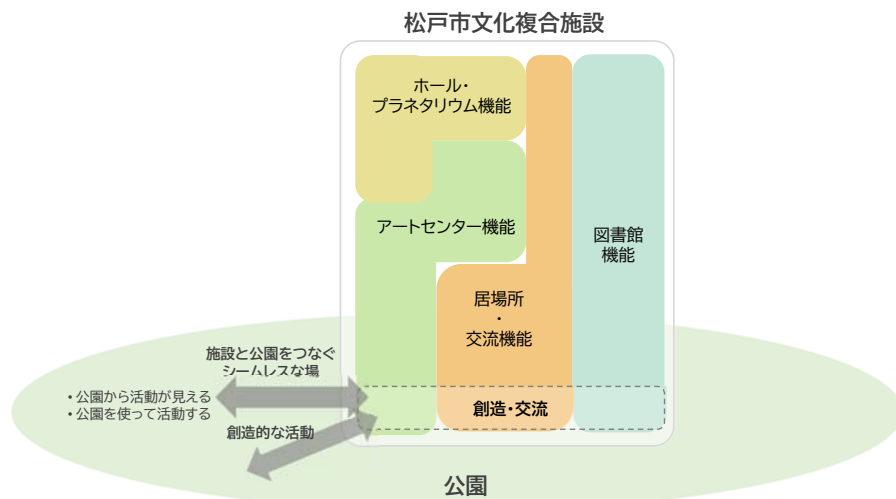
・どの場所においても本と出会えるよう、すべてのゾーンに図書を配置しています。気になる本をすぐに手に取れるだけでなく、思いがけない本との出会いが新たな興味や発見につながります。

・居場所・交流機能が、図書館、アートセンター、ホール・プラネタリウムなどの各機能と隣接することで、各機能の利用の幅が広がり、新たな価値や可能性が生まれ、複合施設としての魅力が高まります。



■ 公園との連携・融合

- ・本施設は、地域の人が誰でも気軽に訪れることができるみんなの居場所であり、多様な機能の融合・交流を通じて、新たな価値の広がりを生み出しやすい環境を目指すことから、公園・広場等と融合し、一体的な憩いとにぎわいの創出を目指します。
- ・低層階にアトリエやラボ、広場などの創造・交流を生み出すシームレスな場を設えることで、公園との垣根を無くし、アクティブで多様な活動を促すことができます。
- ・公園側からも本施設で行われている様々な取り組みや活動に触れやすくなり、公園に訪れる人たちが、気軽に立ち寄り、くつろぎ、交流や活動につながりやすくなります。



6 機能の詳細と規模のイメージ

■ 機能の詳細

本施設のコンセプトを実現させるための規模のイメージについて検討するにあたり、施設の機能について、第1章や第2章で取り上げた本市の現状や他市の参考事例、近隣施設の立地状況等を踏まえ、検討しました。

		機能	機能の根拠		
個別機能	図書館機能（中央館） 【A】	・蔵書数：60万冊 ・開架・閲覧席 ・静読室・カウンター ・閉架書庫・事務室	・蔵書数は、松戸市総合計画の重要業績評価指数（KPI）の目標値（一人あたり2.4冊、50万人で120万冊）から、地域館、分館の蔵書数をもとに設定 ・開架30万冊、閉架30万冊を想定 ・規模は、蔵書数等をもとに文化複合施設に併設された図書館の事例をもとに設定		
	アートセンター機能 【B】	・メインギャラリー、市民ギャラリー ・バックヤード（事務室含む） ・ラボ・アトリエ	・メインギャラリーは国内の巡回展の開催を想定 ・バックヤードは参考事例や専門家ヒアリングをもとにアートセンターの30％程度を想定		
	ホール機能 【C】	・多目的ホール：300－600席 ・ホール控室 ・事務室	・コンベンションホール、サテライトキャンパスなど、固定席ではなく平土間に可動式の座席設置も想定 ・ホワイエ部分は他の機能と共用		
	プラネタリウム機能 【D】	・プラネタリウム室：100席 ・機材室・事務室	・席数は、既存施設及び類似複合施設の事例から算出 ・規模は、席数と他の施設事例からドーム直径約15mと想定 ・ホワイエ部分は他の機能と共用		
	居場所・交流機能 【E】	・各個別機能（A～D）の居場所・交流機能 ・広場、ホワイエ、デッキ等 ・こども・子育てスペース（事務室含む） ・多目的スタジオ、会議室 ・ワーキングスペース ・カフェ、ショップ等	・個別機能の合計面積の40％程度を想定 ・居場所交流機能は、施設全体の可変性、多様性・多目的な利用を実現させるための機能として想定 ・面積や内容は、懇談会の議論をもとに想定		
		共用部	・エントランスホール、EV、廊下、階段、トイレ等	・レンタル率は、施設全体約30％を想定	
		駐車場	・最大100台	・附置義務条例では、対象施設200㎡あたり1台必要	
		その他			

■ 規模のイメージ

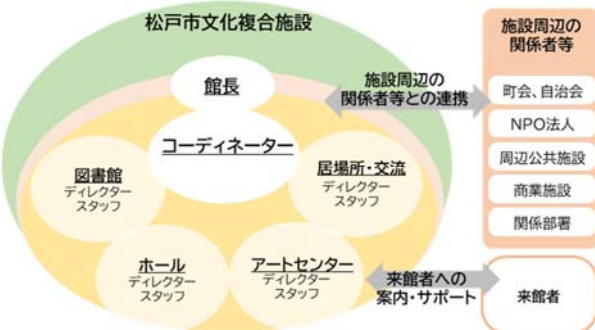
施設全体の規模は、先に示した機能を全て実現すると、本施設と類似機能を持つ他市の参考事例等から、20,000~25,000㎡となります。

施設名	延床面積	各機能			
		図書館機能	アートセンター機能	ホール・プラネタリウム機能	居場所・交流機能
大和市文化創造拠点 シリウス (神奈川県大和市)	26,003.33㎡	・中央館機能(約44万冊) ・レファレンスカウンター ・地域資料コーナー ・点字図書室、対面朗読室、 ・読書室 ・こども図書館	・ギャラリー ・文化創造室	・メインホール(1007座) ・サブホール(272座) ・楽屋	・市民交流ラウンジ ・テラス(読書テラス含) ・ちびっこ広場 ・保育室・相談室 ・スタジオ ・調理実習室・会議室・講習室 等 ・カフェ
せんだいメディアテーク (宮城県仙台市)	21,682.15㎡	・中央館機能(約58万冊) ・相談カウンター ・閲覧席、グループ閲覧室 ・おはなしのへや ・映像音響ライブラリー	・ギャラリー(5室) ・荷解室、控室	・オープンスクエア (多目的ホール 300座) ・スタジオシアター (180座)	・ラウンジ ・プロジェクトルーム ・ホワイエ ・託児室、授乳室 ・会議室・スタジオa,b,c ・ワーキングスペース ・カフェ・ショップ
茨木市文化・子育て複合施設 おにクル (大阪府茨木市)	19,715.22㎡	・分館機能(約10万冊) ・えほんひろば ・おはなしのいえ	・オープンギャラリー ・クッキングラボ	・大ホール(1201座) ・多目的ホール(245座) ・楽屋、リハーサル室 ・プラネタリウム(56座)	・市民活動センター ・屋上広場等 ・子ども支援センター ・一時保育室 ・会議室・多目的室 ・音楽スタジオ ・ワーキングスペース ・カフェ
(仮称)松戸市文化複合施設 【本施設】	20,000㎡ ~25,000㎡	・中央館機能(約60万冊) ・開架・閉架 ・閲覧席、静読室 ・カウンター 等	・アートセンター ・メインギャラリー ・市民ギャラリー ・ラボ・アトリエ ・バックヤード	・多目的ホール (300~600座) ・控室 ・プラネタリウム(100座)	・広場、ホワイエ、デッキ ・こども・子育てスペース ・多目的スタジオ ・会議室 ・ワーキングスペース ・カフェ・ショップ

7 コンセプト実現のための運営の考え方

「一貫したクオリティコントロール」と「機能間の融合・相乗効果」を促進する施設運営が求められます。施設全体を統括する館長、各機能を横断して調整を行うコーディネーター、各機能の責任者であるディレクターを中心とした運営体制を検討しました。

■ 運営体制のイメージ図

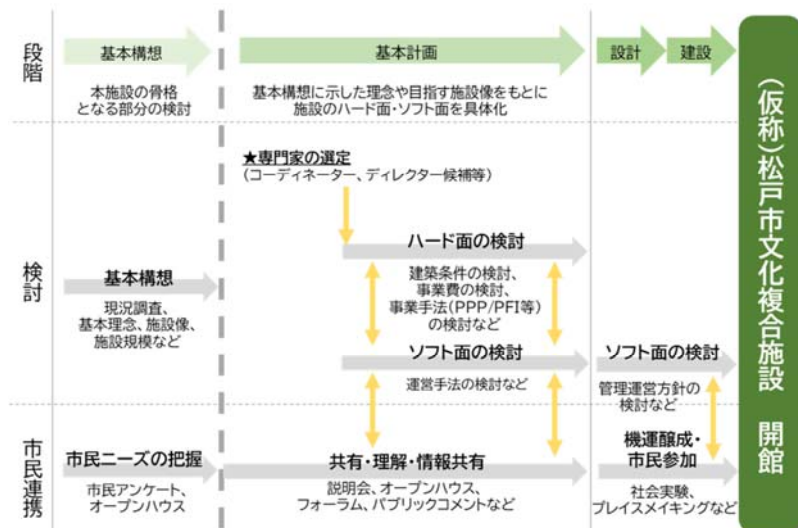


■ 各担当の役割

館長	施設の代表者として、基本理念や目指す施設像の実現に向けて、施設全体のクオリティコントロールを実施するとともに、地元や周辺施設、市と積極的にコミュニケーションを図り、調整役を担います。
コーディネーター	施設全体の調整を担う立場として、図書館、アートセンター、ホール・プラネタリウム、居場所・交流の各機能に関与し、横断的な調整を行います。また、施設全体の運営方針を統一し、各機能間の連携を促進します。
ディレクター	各機能の責任者として、方針の策定やイベント・プログラムの企画・実施を担当し、各機能のクオリティコントロールやスタッフの管理を行います。
スタッフ	各施設の運営を支える実務担当者として、ディレクターと連携し、イベント・プログラムの企画・実施や来館者への案内・サポートを行います。

8 実現に向けたロードマップ

基本計画段階から館長、コーディネーターが関与し、計画の策定に関与させることで実効性の高い計画を策定します。開館前から市民参加を促し、主体的な関わりを育むことで、施設の理念と目標を実現します。



9 今後に向けた留意点

基本理念や目指す施設像の実現に向けた検討は、今後も続いていきます。今後の検討に向けて、次の点に留意し、進めていきます。

● 公共施設再編の視点

本施設の建設予定地の松戸駅周辺においては、老朽化が進み、大規模改修や建て替えが見込まれる公共施設もあります。新拠点ゾーンのまちづくりの進捗や松戸駅周辺の公共施設再編とともに、本施設の検討を進めてまいります。

● 市民参画の推進

価値観や考え方が変わっていく中で、基本理念や施設のコンセプトは市民の意見を組み込み、柔軟に更新していく必要があります。本施設が、市民の皆様が心から楽しんで来場し、笑顔にあふれ、何度でも来たいような施設を目指していくため、引き続き、市民の皆様とともに、基本理念や施設のコンセプトを考え、ブラッシュアップを進めていく必要があります。また、本施設をよりよくしていくための社会実験についても、市民の皆様とともに積極的に行ってまいります。

● コーディネーター、ディレクターの選定

先ほどのロードマップに示したとおり、将来の運営を担うコーディネーターやディレクターを選定し、計画の策定に関与させることで、運営面を考慮した実効性の高い計画を進めてまいります。

● 防災機能の視点

「新拠点ゾーン整備基本計画」に記載の防災拠点としての機能が求められていることに応じて、文化複合施設としての機能と役割を考えてまいります。

● 公民連携(Public Private Partnership)の推進

「新拠点ゾーン整備基本計画」を踏まえ、本施設においても、PPP等を検討し進めてまいります。

1 国の文化芸術政策における「地域のプラットフォーム」

(1) 文化芸術推進基本計画（第1期）平成30年度～令和4年度

目標4 地域の文化芸術を推進するプラットフォーム

地域の文化芸術を推進するためのプラットフォームが全国各地に形成され、多様な人材や文化芸術団体・諸機関が連携・協働し、持続可能で回復力のある地域文化コミュニティが形成されている。

戦略5 多様で高い能力を有する専門的人材の確保・育成

戦略6 地域の連携・協働を推進するプラットフォームの形成

全国各地において、国、独立行政法人、地方公共団体、文化芸術団体、文化施設、企業等の民間事業者等を含む関係機関相互の連携強化を図り、総合的な文化芸術政策を担いつつ、地域の連携・協働を推進するプラットフォーム（関係機関等の対等な立場でのゆるやかな連携・協働を可能にする枠組み）を形成する。

（文化庁「文化芸術推進基本計画—文化芸術の「多様な価値を活かして、未来をつくる—（第1期）」より）

(2) 文化芸術推進基本計画（第2期）令和5年度～令和9年度

中長期目標4 持続可能で回復力のある地域における文化コミュニティの形成

地域の文化芸術を推進するためのプラットフォームが全国各地に形成され、多様な人材や文化芸術団体・諸機関が連携・協働し、持続可能で回復力のある地域における文化コミュニティが形成されていることを目指す。

（文化庁「文化芸術推進基本計画（第2期）—価値創造と社会・経済の活性化—」より）

2 地域版アーツカウンシルについて

(1) 地域版アーツカウンシルとは

- ・アーツカウンシル機能（専門家による助言、審査、評価、調査研究等の機能）を有する組織
（アーツカウンシル・ネットワークHPより）
- ・文化芸術の振興を目的に、行政から一定の独立性を保ちつつ、専門的な見地から企画・評価を行う
中間支援組織のこと
（「文化スポーツ創造のまち・まつど」推進方針より）

(2) 他の自治体のアーツカウンシルの主な事業（機能）例

自治体・組織	主な事業（機能）	主な特徴
東京都 アーツカウンシル東京	助成、相談・情報提供、創作環境整備、 人材育成、ネットワーク形成	「多面的・多層的な支援」 「アーティストの創造活動や芸術文化の 担い手を支える 」
横浜市 アーツコミッション・ヨコハマ	助成、相談、 ネットワーク形成 、情報発信	「芸術文化と社会を 横断的に繋いでいく ための中間支援」
さいたま市 アーツカウンシルさいたま	助成、相談・助言、人材育成、文化芸術プログラム、調査研究、 ネットワーク形成	「市民が 暮らしの中で文化芸術と触れ合う 機会を増やす」 「文化芸術を通じて、将来のさいたま市の姿を考える」
長野県 信州アーツカウンシル	助成、相談・助言、 連携・協働 、社会包摂、地域創造・交流	「文化芸術活動の「担い手」を支援する」 「さまざまな機関と ゆるやかに連携 」 「助成、相談・助言などの 寄り添い型の支援 」

（各組織・団体HPより）

3 松戸版アーツカウンシルについて

「文化スポーツ創造のまち・まつど」推進方針における位置づけ

戦略5

文化芸術とスポーツを支える持続可能な基盤を作り、担い手を育てます

施策5-1 松戸版アーツカウンシルによる伴走型支援の仕組みをつくります

- ・地域の実情に精通した専門家による支援組織「松戸版アーツカウンシル」を構築し、多様な文化芸術活動に対し、企画立案・助言・広報等の伴走型支援を展開することで、文化芸術活動の質的向上、地域・企業・教育機関等とのネットワーク強化、担い手育成を図ります。

令和7年度 第3回松戸市文化スポーツ推進審議会 議事録

1. 開催日時	令和8年3月25日（水）18時～20時
2. 開催場所	松戸市役所 新館7階 大会議室（zoomによるオンライン含む）
3. 出席者等	【委員】（名簿順）15名 熊倉委員（会長）、田簀委員（副会長）、小島委員、 岩下委員、菊田委員、坂委員、局委員、大成委員、 菊地委員、秋葉委員、武田委員、羽賀委員、森委員、 山根委員、和座委員 【松戸市】 文化スポーツ部長、生涯学習部長、学校教育部長、 文化スポーツ政策課長、スポーツ振興課長、 スポーツ施設担当室長、文化にぎわい創造課長、 国際推進課課長補佐、社会教育課長、 文化財保存活用課長、博物館次長、戸定歴史館長、 図書館長、事務局（文化スポーツ政策課）ほか
4. 傍聴者	1名
5. 次第	1 議事 ・令和8年度一般社団法人松戸市スポーツ協会への補助金交付 について（意見聴取） ・「文化スポーツ創造のまち・まつど」推進方針（案）の答申に ついて 2 その他
6. 資料	【配付資料】 資料1 （仮称）松戸市文化スポーツ創造のまち推進方針について 資料2 令和7年度第1回文化スポーツ推進審議会 会議録 資料3 令和7年度第1回文化スポーツ推進審議会 意見票
7. 議事	以下のとおり

開会

・文化スポーツ部長・挨拶

1 議事 令和8年度一般社団法人松戸市スポーツ協会への補助金交付について (意見聴取)

(事務局)

資料1を用いて説明。

(熊倉会長)

意見はあるか。

(異議なしの声)

(熊倉会長)

本補助金の交付について、承認とする。

1 議事 「文化スポーツ創造のまち・まつど」推進方針(案)の答申について

(事務局)

資料2、3を用いて説明。

(熊倉会長)

説明内容での不明点等、質問はあるか。その後一人ずつ意見をいただきたい。

(小島委員)

1点。戦略3-3について、「文化」となっているか「文化芸術」ではないか。

(文化スポーツ政策課長)

誤植である。「文化芸術」に修正する。

(山根委員)

P8の図の重なり、4と5は薄いと感じる。図に意図はあるのか。

(文化スポーツ政策課長)

他意はない。配置を調整する。

（和座委員）

子どもの主体的な参画について色々書かれていてよいと感じている。

子どもの参画に対して、評価・フィードバックできるとよいと考えている。そのことに関して施策あるのか。

（文化スポーツ部長）

子どもの権利条約の基本的な考え方をベースにしたご発言と受け止めている。この方針は施策、戦略のレベルであるから、今後、各事業において子どもと一緒に考えていく中で評価・フィードバックをしていけるとよいと考えている。

（和座委員）

スポーツの指導法は今後より一層科学的に行われていくべきだと考えている。この方針における位置づけを再度説明してほしい。

（文化スポーツ政策課長）

戦略1－2「指導者育成」の中で取り組んでいくことを想定している。

（和座委員）

中学校の部活動ガイドラインで科学的な指導について踏み込まれている。教師と生徒が互いに評価し合うことも重要だと感じた。今後は松戸市もしっかり取り組んでほしい。

トップアスリートとのふれあいの中で、科学的な指導の成果を子どもが享受できるようにあってほしい。

（熊倉会長）

各論は次の審議会の議論でしていきたい。

方向性としてどうあってほしいか議論したい。

（森委員）

P8の戦略の見出しとページ下部の図内のキーワードが一致していないと感じる。

例えばウェルビーイングは施策の中に記載がない。ソフト・ハードの基盤整備というのも単独で見るとイメージがしづらいと感じた。

（文化スポーツ政策課長）

P8図内のキーワードについては、戦略1から5の重要なポイントを抜粋したイメージであった。森委員の指摘を踏まえ、戦略との整合、表記の仕方は事務局で調整する。

(坂委員)

K P I の記載はないが対話的評価（ピアレビュー）による定性的評価の記載がある。専門家や実践者が評価をするのか。また、専門家とはこういった人たちか。

(文化スポーツ部長)

他地域の同様な事例へのヒアリングや、専門家が相互に評価する仕組みなど、様々な方法がある認識である。具体的な方法については、今後制度設計しながら考えていく。

K P I の記載はしていないが、この方針の評価軸を対外的に説明していくために施策5 - 3を記載している。

(熊倉会長)

特に文化政策は、数値的な目標設定等、アウトプット評価はそぐわないという考えがある。今は鳴かず飛ばずでも将来につながるものも受け入れている。

ピアレビューは定性的な評価の中でも形成的評価と言われており、プロセスややり方等を自分たちで確認しあうもの。先進事例と比較しながらマネジメントややり方等を自省・改善していく。合わせて交流も生まれるので、前向きに捉えている。一方で、個人的に本方針ではK P I の導入は後ろ向きである。もちろん個別具体の施策に取り組む際には、ある程度数値的な目標は必要かと思うが、この方針のレベルでは方向性を示すもので数値を追うものではないという考えである。

(坂委員)

進捗管理と評価は必要だと考えている。行政の自己評価ではなく第三者による評価で、施策の進捗や取組の質を維持・向上していくことも重要だと考えている。

例えば施設整備において、継続発展し、より多くの市民にとってプラスになっていることを把握するため、先程の対話的評価と併せて定量的評価を用いて取組を推進していけるとよい。

戦略1 - 2「指導者育成」について、子どもの技術、心身向上は重要だが、子ども健全な発達のために医療面での指導力を担保する育成を期待したい。

(小島委員)

よくまとまっていると感じている。「文化」は文化芸術基本法と文化財保護法で対象が異なる。文化財保護法は家や地域、伝承、継承を対象とした縦のつながりである文化。文化芸術基本法は稽古や習い事、流派等の横のつながりを意図した内容。今回P 5で文化芸術基本法に依拠した施策と整理されたことで、横のつながりをつくっていくというこの方針の意図もよく理解できた。前回の意見・疑問はこれで払拭された。

(熊倉会長)

事務局で「文化芸術」と整理した。理解を得られてよかった。

(和座委員)

戦略 2-3「健康づくりを推進します」という表記は医師の立場からもありがたいと感じている。ここに「認知症」「精神疾患」についても対象としている記載もあるとよい。文化芸術とスポーツはそこにも生かされると考えている。

「ウォーキングイベント」の記載もよい。日常生活の中にあるウォーキングは健康づくりへの導入として最適だと考えている。

(熊倉会長)

フレイルの中に認知症は入っていないのか。

(和座委員)

相互に関連はしている。フレイルによって体が動かない、コミュニケーションを取らないとなると、認知症も進んでしまう。

(武田委員)

わかりやすい表現になったと感じている。

「松戸版アーツカウンシル」は具体的にイメージできないが、松戸にあったかたちで中間支援組織をたちあげるのは楽しみである。

(熊倉会長)

国の基本法にもアーツカウンシルといたかったが、いれられなかった。イギリスのアーツカウンシルがモデルケースで既にあったが、文化芸術振興基本法と最初の計画には「基盤・プラットフォーム」としてしか記載できなかった。その後各自治体で様々なトライがなされた。

現在は、年1回程度文化庁が各施策の関係者を集めて、それこそピアレビューをしていたと記憶しているが、どうか。

(森委員)

年3回、情報共有の場がある。

(熊倉会長)

それぞれの在りようはどのような状況なのか。

(森委員)

自治体の文化振興財団内にアーツカウンシルを置くケースが多い。しかし、それがよいかはわからない。

名古屋市では文化振興財団とは別組織となっている。助成が主な役割となる場合、審査会を置くケースもある。調査研究を行うケースもあれば、モデル事業を推進するケースもある。この3ケースに集約できるのではないか。

（熊倉会長）

今、政策に求められるのは、文化芸術やスポーツを通じた「社会的なつながり」だと考えている。松戸に人材はいる、とすれば横のつながりを強化していくための公金を投じていくことも重要になると考えている。

ウェルビーイング向上は、元気でない人も対象である。物理的・社会的孤立への対策は、やりようによっては効果があると考えている。そういった仕掛けを考えてくれるチームがあるとよいと感じる。各論はおって議論したい。

（局委員）

戦略4－2「利便性向上」とあるが、松戸市の施設はだれでも利用できる。そのため、最近は市内団体が「予約できない」というケースもよく耳にする。子どもの活動場所が頻繁に変更を余儀なくされると、事故の懸念もある。

P 8 下部の図は、タイトルがあると市民にわかりやすく伝わると感じた。

（熊倉会長）

運用の弾力化については、市でポリシーをつくって弾力的な運用する等、検討してほしい。

（岩下委員）

これまでの議論をふまえてわかりやすくまとめられていると感じた。

個人の活動だが、ユニバーサルなバスケットボールチームを立ち上げた。まずは知ってもらい、知ってそこに参加する人を増やすこと、広めていくことに重きを置くことも大事なことであると思う。情報を届け広げていくことで、色々な関係機関で具体的な施策が広がり、市民の活動がよりよくなっていくとよいと思った。

スポーツ推進委員として、戦略2－4と1－4が一番大事だと感じた。

（山根委員）

単純に疑問だが、こうした方針に予算について記載がないのはよいのか。

（熊倉会長）

方針なので、記載はない。

(山根委員)

今日の資料1は文化ではなくスポーツの補助金だけが議題だったが、なぜか。

(文化スポーツ政策課長)

社会教育委員会議で文化施策について議題にしている。本会議の条例上のたてつけから議題1のスポーツの補助金交付についてふれた。

(熊倉会長)

こうした方針は総花的になりつつあるが、ある程度の方向性を定めているものである。次のフェーズで「どこにどう予算をつけていくか」など議論することになるだろう。

(文化スポーツ部長)

予算の使い方をないがしろにしているわけではない。これまでは文化振興財団が団体への支援等行っていたが、こちらとしても文化に対する予算の組み方が整理できていないと感じている。そういったものを整理する礎となる議論になれば。

(大成委員)

わかりやすくまとめられた印象である。

これまで議論にあがらなかったと思った点がいくつかある。

「企業」という表現があったが、文化芸術分野でも企業や教育との繋がりや連携を進められると思う。

戦略2-1「多様な価値観を認めあう」というところで、これは国際交流のことも入っていると思うが、これまで松戸市がやってきた事業等、もう少しアピールできてよいのではという印象である。

松戸はサブカルチャーのイメージもあると思うがこのあたりの表現が弱い印象である。文化芸術の枠組みを掘り下げられるとよい。

(熊倉会長)

サブカルチャーは営利で成立しているため従来は行政支援の対象ではなかったが、若い人自身が盛り上がる手段等、社会的な成果としてはあり。ただし「プログラミング」や「eスポーツ」、「コスプレ」等の記載は一部分を具体的に記載しすぎている印象もある。「サブカルチャー」という表記だけでもよいのでは。

「内なる国際化」は放置しておくのはよくないと考えている。現在の国際交流は、従来のものとは異なり、多国籍化している市民の孤立を防ぐもの。相互理解、自国文化の理解は重要になるだろう。

(菊池委員)

方針案をメールで見たときワクワクした。これまでの議論の積み重ねでまとめられたのだろうと感じた。義務教育の9年間は自分を知る機会と考えていて、この方針はその先にあるものだと感じる。「ウェルビーイング」を目指していくという方向性がよいと感じた。市民一人ひとりがよりよく生きていけることを目指すことには賛同であり、楽しみである。

1点。「こども」と平仮名だが、どのような意図なのか。

(文化スポーツ政策課長)

「こども家庭庁」など内閣府の書き方に準じている。

(熊倉会長)

オンライン参加の委員は意見あるか。

(菊田委員)

戦略2-1「多様な価値観を認め合う」切り口は、ありがたい。一方で、例えば「障害」は千差万別である。中には周りに気を使ってしまい、「全ての人と一緒に何かをする」ことが考えられない人もたくさんいる。あえて障害のある児童だけを対象にしたゆるい支援も始まっている。知的障害の子や車いすの子たちがつながりたくないと思っているわけではないが、そこに高いハードルがあることも知っていてほしい。

戦略4-2市立博物館の大規模リニューアルについて、松戸市障害者団体連絡協議会として要望を伝えたが、白紙撤回のニュースを目にした。現状どうなっているのか。

(博物館次長)

1月から8月まで休館している。リニューアルについては継続検討となっている。

(秋葉委員)

わかりやすくまとまっていると感じた。方針は最大公約数的だが、今後詳細を詰めていってほしい。

P6図中の「経済的価値」には少し違和感がある。本質的価値・社会的価値と並列して目指すものでもないと感じた。あわせて何を経済的価値とするか、戦略5にある資金調達とは違うと考えていて、整合もとれていないように感じた。

(熊倉会長)

文化庁の計画に則った区分で経済的価値は「観光」「産業振興」「街の地価」などを見据えている。そちらを参酌しているのではないか。

(文化スポーツ政策課長)

熊倉会長と同じ認識である。戦略5は持続可能な取り組みとするため、公金だけで賄えない部分をどうしていくかの対策として方向性を示している。

(熊倉会長)

儲ける方向性を国も議論している。秋葉委員の意見のように、簡単に経済につながるものはないと個人的には感じている。今後、素直に国の方針に合わせなくてもよいと思う。

(羽賀委員)

資料に異論はない。戦略1と2の「情報発信」について「情報がはいつてこない」人も多いと思う。どうアウトリーチしていくかも考えられるとよい。

(熊倉会長)

文化芸術とスポーツを入り口にして、新たに関心を喚起していくことは可能性があると感じている。松戸市では、文化とスポーツを通して分断せず統合して、将来的に枠組みを取っ払って新しい価値のありようを積み重ねていく街になったらよいと感じている。

(田簗副会長)

市民の健康づくりからプロスポーツまで考えていく方針であり、これからががんばりどころだと感じている。

文化芸術とスポーツを統合していくことで「まず知ることができる」という価値は大きいだろう。また、将来的に子どもたちにとって松戸の街が楽しいということが伝わっていくとよいと感じた。

今後は無関心層、関心層へのアプローチが重要になると思うが、今どきの子どもは情報収集能力や柔軟な発想を持っている。すぐに結果を求めるのではなく、本質的な価値の向上にむけて、継続的に取り組んでほしい。

(熊倉会長)

他に意見はあるか。今後はパブリックコメントも予定されている。

(小島委員)

P6「環境」「街づくり」の用語が何を指しているか見えづらいと感じた。

自然環境にかかる枠組みとして「生態系」と表記してはどうか。文化は文化財保護法とは異なると理解した。

(森委員)

戦略3-4は何が主語なのかわかりづらいと感じた。

（文化スポーツ政策課長）

身近な場所でトップレベルにふれることで地域の活力にしていけるということを示したい。表現を再考する。

（和座委員）

戦略4-4について。子どもの主体的な参画について具体的でわかりやすい表現になっているとよい。

文化芸術とスポーツが健康づくり（ウェルネス）にリンクしているという理解をした。バイオ・サイコ・ソーシャルにつながることでウェルビーイング向上につながるものとされていて、文化芸術は特にサイコ・ソーシャルは重要だと感じている。信頼できる人との社会的つながりは健康にも大きく影響する。バイオはスポーツが近いといえるだろう。戦略2-3はこの点にフォーカスしてほしい。

（熊倉会長）

e スポーツが散見されるが、松戸市は注力していくのか。

（文化スポーツ政策課長）

事業も実施しており、いれていけるとよいと考えている。

（熊倉会長）

オリンピック競技にもなるが、トップアスリート育成の支援とこの方針の「支援」は真逆である。安直に「流行ったからいれる」では、いかがなものかと思う。ややトーンダウンしてもよい気もしている。

（田簀副会長）

e スポーツの概念も拡張している。例えばドローンサッカーが人気だったりする。会長が言うようにオリンピックチャンピオンを目指すというのは違うと思うので、競技ではなく「人と人が出会う場」としてe スポーツを活用していくことは重要なポイントだと感じている。

（熊倉会長）

戦略2-1で重点的に記載できればよい。概念整理が不十分な中散見されるのは違和感がある。

（文化スポーツ部長）

修正を検討する。

(熊倉会長)

いつまで修正意見を受け付けるか。

(事務局)

4月10日まで受け付ける。

2 その他

- ・事務局より事務連絡。

閉会